

「弘法」伽藍大塔にて
昭和天皇揮毫の扁額です。（詳細は4ページ）



霊宝館だより

題字・畚野光義師

霊宝館だより 第135号

令和2年10月2日発行

和歌山県伊都郡高野町高野山306

公益財団法人高野山文化財保存会

高野山霊宝館

電話0736-56-2029

URL: <http://www.reihokan.or.jp>

利用案内

■ 休館日	■ 開館時間
年末年始のみ	5月1日～10月31日 8時30分～17時30分
	11月1日～4月30日 8時30分～17時00分

■ 拝観料（10月16日～）	■ 大人
高・大学生	1300円
小・中学生	800円
高野町に住居票がある方、高野町内の学校に在籍する学生の方は入館無料です。※身分証提示	600円

大師号下賜1100年記念 大宝蔵展

高野山の名宝 皇室と高野山

10月3日(土)～12月6日(日)

第135号 目次

大宝蔵展のご案内……………	2～3
収蔵品の紹介107……………	4
高野山の古建築 第三十七回……………	5
特集 夏期企画展 開催報告……………	6～7
古絵図で巡る高野山探訪（その十二）……………	8～9
高野山の文書（二十一）……………	10
高野山霊宝館からのお知らせ……………	11
高野山でお茶しましょ 第3回……………	12

毎月21日（弘法大師の日）ご来館の方にプレゼントあり！

高野山でお茶しましょ ③

今回は番外編として「テイクアウトで楽しむ高野山の味」をご紹介します。（価格はすべて税込み、掲載情報は2020年9月時点のものです。）

（株）角濱総本舗 飲食部

住所： 高野山230 大門より徒歩3分
電話： 0736-26-8700
FAX： 0736-26-8701
※ 前日までに要予約
営： 9:30-17:00
休： 無休（臨時休業あり）

老舗ごまとうふ店が作るお弁当は、自慢のごまとうふが入った高野山ならではの味。醤油とわさびでいただく定番の味に加え、ごまとうふのたがらは火を通すことでトロトロの食感に変化し、また違う味わいです。精進料理ではおなじみの生麩は煮物と天ぷらで。飛龍頭・厚揚げも自家製です。



写真奥：胡麻んぞく弁当（800円）。手前の胡麻んえつ弁当（1,100円）は肉厚の龍神村産椎茸が目を引く豪華版です。

一の橋 天風（旧一の橋観光センター）

住所： 高野山737 一の橋すぐそば
電話： 0736-56-2631
FAX： 0736-56-3408
当日注文可（～14時）※ 提供の30分前までに要予約
営： 10:00-16:00（ランチ11:00-14:00）
休： 不定休（無休）

店内の食事処「Shojin Dining 桐宝珠」特製サンドウィッチはパンではなく、高野豆腐で挟んだ意外な一品。具材はすき焼き風コロッケ（湯浅醤油使用）・トンカツ・南高梅ソースのハムチーズとボリューム満点。焼き目の付いた高野豆腐は煮物とはまた違う味わいで、洋の食材とのコラボが新鮮です。



高野豆腐サンドウィッチ（フライドポテト付き、800円）。提供まで約30分かかりますので、必ずご予約ください。和歌山のブランド牛・熊野牛の極上牛丼（1600円）などもテイクアウト可能です。

レストラン楊柳

住所： 高野山48 中の橋駐車場より徒歩1分
電話： 0736-56-3471
FAX： 0736-56-3195
当日注文可（午前中）
営： 9:00-14:00 オーダーストップ（テイクアウト11:00～）
休： 無休（臨時休業あり）

高野町民がその名前から気になったメニューNo.1、卵と自家製ごまとうふがたっぷり入った「ごまとうふ丼」は、名前の通り温かいごまとうふがとろける食感です。胡麻の香りを生かしつつ、刻んだかまぼことダシの風味がきいた、優しい味わいです。



ごまとうふ丼（500円）。そのほか鮭弁当、唐揚げ弁当（各500円）など、リーズナブルなメニューが充実しています。

※次回は138号掲載予定です。

どれも
おいしそう！



※壇上伽藍・金剛峯寺・奥之院は聖域につき飲食禁止です。霊宝館の休憩所・ベンチや観光情報センター（金剛峯寺第2駐車場に隣接）の飲食スペースなどをご利用下さい。



霊宝館休憩所

壇上伽藍
金剛峯寺
奥之院
での飲食は
ご遠慮願います

※ごみは必ずお持ち帰り下さい。そのほか徳川家霊台の向かいにある金輪公園や、金剛峯寺前駐車場の南にある広場もおすすめです。



「真宗」の豆知識

「真宗」ってなあに？

「真宗」は「真言」の天皇が崩御（へつご）された後に呼ばれる名前のことです。特にすべた僧侶にも、朝廷から贈られます。僧侶の場合には弘法大師（空海）、伝教大師（最澄）などの「大師」や「禅師」「国

師」と付く呼び名が「真宗」です。空海上（七七四〜八三五）には延喜二十一年（九二一）に、東寺長者の観賢僧正が朝廷に申し出て、醍醐天皇（八八五〜九三〇）より「弘法大師」の諡号が下賜（贈られること）されました。



重文 金剛峯寺根本縁起 南北朝時代 金剛峯寺



水遊篇鴛鴦形文鎮（雄・雌）
明治時代 金剛峯寺



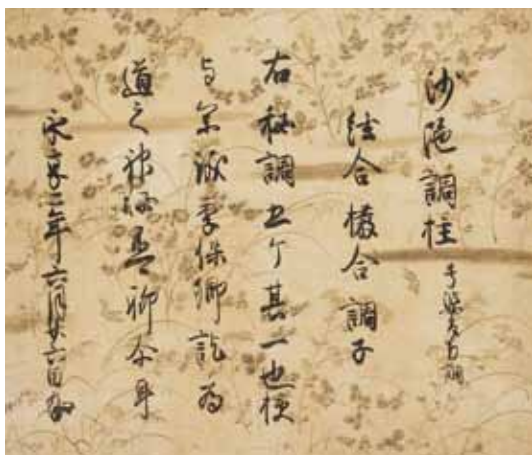
嵯峨天皇像 平成4年（1992）
金剛峯寺



重文 靈元天皇宸翰紺紙金字般若心経
江戸時代 金剛峯寺



重文 高野大師行状図画のうち巻第六 室町時代 地蔵院
弘法大師空海上入が入定の86年後に「弘法大師」の大師号を下賜され、檜皮色の衣に召しかえる場面。



重文 後小松天皇宸翰秘調伝授書 室町時代 西南院
後小松天皇が四辻季保に琵琶の秘調を伝授した時のものである。流麗かつ温雅な筆致で、秋草で装飾された特別な料紙に書かれている。



重文 十一面観音立像 平安時代 宝亀院
元々は嵯峨天皇の念持仏とされる。醍醐天皇より観賢僧正に下賜され、その後奥之院のお衣替えの後、高野山宝亀院創建にあたり本尊として祀られた。

大師号下賜一一〇〇年記念大宝蔵展

「高野山の名宝 皇室と高野山」

令和2年10月3日（土）〜12月6日（日）

会期中無休

※関西文化の日に協賛し、

11月16日（月）を無料開館日とします。

空海上入が「弘法大師」の諡号を天皇よりいただいて今年で一〇〇年を迎え、記念の法会も行われます。また、高野山には嵯峨天皇や醍醐天皇をはじめ多くの天皇からの書状、下賜品、皇室にゆかりのある文化財が伝わっています。今回は、大師号下賜一一〇〇年を記念して皇室にまつわる文化財をはじめ、真言宗が天皇・国家のために修法する仏様や経典などを中心に展示します。

主な展示品

彫刻

重文 十一面観音立像

宝亀院

絵画

重文 高野大師行状図画（期間中巻替あり）

地蔵院

重文 覚禅鈔（後七日御修法事）

釈迦文院

重文 弘法大師・丹生・高野明神像（問答講本尊）

金剛峯寺

未指定 嵯峨天皇像

金剛峯寺

未指定 入定弘法大師像

金剛峯寺

未指定 観賢僧正像

龍光院

書跡

国宝 紫紙金字金光明最勝王経

龍光院

国宝 宝簡集四〇（後醍醐天皇御旨）

金剛峯寺

重文 金剛峯寺根本縁起

金剛峯寺

重文 靈元天皇宸翰紺紙金字般若心経

金剛峯寺

重文 後小松天皇宸翰秘調伝授書

西南院

未指定 昭和天皇筆勅額「弘法」

金剛峯寺

工芸

未指定 水晶玉木彫台御棚飾

金剛峯寺

未指定 水遊篇鴛鴦形文鎮（雄・雌）

金剛峯寺

未指定 螺鈿秋草蒔絵文箱

金剛峯寺

※文化財の保存上、展示品が替わる場合があります。

同時開催

特別パネル展「象徴のうた〜皇室のこころ〜」

著者 永田和弘 主催 共同通信社

写真提供 宮内庁 神戸布引ハーブ園 日本赤十字社

今後の展覧会予定

平常展「密教の美術」

令和2年12月12日（土）〜令和3年4月11日（日）

霊宝館100周年記念展（仮題）

令和3年4月17日（土）〜11月28日（日）

（予定、詳細は次号）



母の霊屋の正側面を見る 切妻造、妻入りで、建築的には簡素だが、壁面にはたくさんの仏さまが彫り出され、華やかに荘厳されている。



母の霊屋の背面中央間の阿弥陀如来 背面中央には阿弥陀さまが彫り出されている。左右から側面にかけての多くの仏さまは、阿弥陀さまとともに西方極楽から死者を迎えに来た菩薩達のようなのだ。



秀康霊屋の背側面を見る 四周に吹き放しの「庇」が廻り、中央が墓石を安置する石室となっている。壁面には多くの仏さまが浮き彫りで彫り出されている。



秀康霊屋の内部を見る 天井には天蓋が描かれ、四方に雲がたなびいている。柱や小壁にも彩色が残る。剥落しているがかつては華やかだったに違いない。中央に金色に輝く秀康の墓石の頂部が見える。

連載

高野山の古建築

重要文化財 蓮花院 松平秀康及び同母霊屋（二）

鳴海 祥博

第三十七回

徳川家康の次男松平秀康（一五七四―一六〇七）の霊屋は、正面三間、側面二間の「母屋」の周囲に、吹き放しの「庇」を廻して、入母屋造の屋根を架け、正面には唐破風を付けています。母屋の四周に吹き放しの「庇」を廻す建物は日本では他に例がなく、注目です。

その母「小督局」の霊屋は正面が三間で二・七八m、側面が二間で二・二二m。屋根は切妻造で、三角形になる妻面を正面としています。従って梁間となる正面の柱間が、桁行となる側面の柱間より大きくなっています。これも日本の伝統的な建築の架構としては特異なものです。二棟の霊屋はいずれも正面の中央間に石製の扉を建て込み、その他は壁となっています。壁は柱間に大きな長方形の板石を立て並べたもので、板石の表面には、仏像が厚肉彫りで彫り出されています。それはどのような仏さまなのか見てみましょう。

まり知られていないのではないのでしょうか。今回紹介する昭和天皇宸筆（自筆）の書は「勅額」と呼ばれ、これらの扁額の原本で、絹に各縦五〇cmほどの大きな文字で揮毫されています。桐箱と、更に菊の御紋が入った黒漆塗の脚付き箱で厳重に保管されています。

昭和十八年（一九四三）発行の『弘法大師壹千百年 御遠忌紀要』（金剛峯寺事務局編※）には勅額が下賜されるまでの経緯が事細かに記されています。それによると昭和九年（一九三四）の弘法大師入定千百年御遠忌に関連する一大事業として、大塔の再建が行われました。大塔は昭和十二年（一九三七）五月に落慶法要が営まれましたが、それに先立つ同年二月に、金剛峯寺は宮内省と文部省に勅額下賜願書を提出します。その際、勅額は一宗一枚限りの下賜とされたため、東寺ほか真言宗各派管長の同意書を得て、ようやく四月に下賜の運びとなります。金剛峯寺座主をはじめ高野山の要職にある僧侶が東京の宮中にて拝領し、勅額は白木の唐櫃（奥之院

で、弘法大師のお膳を運ぶ木箱と同様のもの）に納めて鉄道で運ばれ、東京・横浜・静岡・名古屋・京都などの停車駅ごとに数百人の地方寺院住職・檀信徒らによる盛大な奉送・奉迎を受けたといいます。大阪の難波駅では檀信徒数千人に迎えられ、南海特別電車で高野山に到着。待っていた和歌山県知事・高野町長・山内住職や多くの住民と共に女人堂から奥之院御廟まで行列は進み、報告法要のち金剛峯寺に奉安されました。

このように昭和初期における、今上天皇による勅額をお迎えする人々の感動・感激のようすは、現代の我々には想像も及ばない熱狂ぶりだったことがうかがえます。今からちょうど一一〇年前、弘法大師の諡号は醍醐天皇より下賜されました。その「弘法」の名は現代でも高野山と皇室の結びつきを示しつつ、静かに人々を見守っています。

（福形安希子）

※非売品ですが、国立国会図書館デジタルコレクションより閲覧できます。

両霊屋の正面扉の両脇には不動明王と毘沙門天、そして秀康霊屋ではさらに不動明王に付き従う制多迦童子と矜羯羅童子もいます。

背面の中央間には阿弥陀如来立像が大きく彫り出され、その両側から建物の両側面にかけて脇侍の観音・勢至菩薩をはじめ多くの仏さまが彫り出されています。その中には笛や太鼓、幡などを持つている仏さまもいます。阿弥陀さまが、音楽を奏でる菩薩達を従えて、西方浄土から死者を迎えに来る「阿弥陀来迎」の場面を表しているようです。建築物本体に彫り出された彫刻としてはとても珍しいものです。

霊屋の内部には墓石が安置されています。秀康を祀る墓石は宝篋印塔という形式で、全面に金箔が施され、金色に美しく輝いています。高野山にある何十万基といわれる墓石の中で、全面金箔張りの石塔は恐らくこの秀康の墓石だけではないでしょうか。

秀康霊屋の天井は、板石を一面に並べた鏡天井となっていて、天井石には天蓋と瑞雲が極彩色で描かれています。柱や小壁にも金欄卷や瑞雲が描かれています。彩色は顔料の剥落が進んで、当初の華や

かさが失われているのは残念ですが、石材の表面に彩色を施すのはとても珍しく、貴重な遺構です。母の霊屋は天井がなく屋根板石が化粧となつています。そして屋根板石を受ける「木製」の桁と棟木が見えています。外部から見ると全て石造のように見える霊屋ですが、実は木製だったのです。

外部から見ると石で造られた桁や隅木ですが、この石製の桁や隅木は、上端からコの字型に削り抜かれていて、その中に木材を入れ込んでいるのです。桁をよく見ると側面に丸い金物が見えますが、これは石製の桁と内部の木材を留め付けている金具です。なぜ桁を木製にしたのでしょうか。屋根は瓦のように石材を加工し、平瓦に相当する板石と半円形の丸瓦石を組み合わせて載せています。そして並べた後でズレないように大釘を打って止めています。屋根の石材を釘打ちで止めるために、桁と棟木、隅木だけは木材とする必要があったのではないのでしょうか。二棟の石造の霊屋は、見どころ満載のとても珍しい貴重な建物です。 ※内部非公開

昭和天皇筆勅額「弘法」一幅

絹本墨書 昭和十二年（一九三七）
金剛峯寺蔵 縦二二六・三cm 横八四・七cm

お遍路さんにはおなじみの書



表装には菊紋の裂を使用し、軸首などの金具には菊と桐紋の透かし彫りが施されています。



軸首

伽藍大塔を内拝したことはあります。本尊の大日如来像の、更に上を見ますと、「弘法」と刻まれた大きな扁額があります（表紙参照）。四国八十八ヶ所を巡拝された方なら、同じ筆跡の扁額が各お寺の大師堂に掲げられていることをご存じかと思ひます。ただ、この書が昭和天皇（一九〇一―八九）の筆であることは、現在あ



重文 阿弥陀如来及両脇侍立像 鎌倉時代 五坊寂靜院

霊宝館では10年ぶりの展示となりました。亡くなった人を極楽浄土へと導く阿弥陀如来と、観音（向かって右）・勢至（左）菩薩です。



左奥：仏頭 昭和6年（1931）金剛峯寺

伽藍金堂の本尊、薬師如来（秘仏、高村光雲作）を制作する際に、試作された如来の頭部です。



懸仏3点 鎌倉時代ほか 金剛峯寺

木製の円盤に銅板を貼り、大日如来の梵字（金剛界と胎藏界）と大日如来像が取り付けられています。伽藍御社の奉納品です。



八万四千宝塔 江戸時代 圓通寺

五輪塔は地・水・火・風・空の五大と、大日如来をあらわすと言われます。手前は未完成品。

国宝 仏涅槃図 金剛峯寺〔後期〕
 国宝 金銀字一切経（中尊寺経） 金剛峯寺
 重文 九品曼荼羅図 清浄心院〔前期〕
 重文 阿弥陀如来坐像 地藏院
 重文 薬師如来坐像 高室院
 重文 阿閼如来立像 親王院
 重文 紙胎花蝶蒔絵念珠箱 附念珠 金剛峯寺〔後期〕

国宝2件5点、重文23件34点、未指定36件を含む
 合計約90点を展示（前後期で一部展示替あり）

【主な出陳品】

特集

令和二年度夏期企画展「如来——NYORAI——」開催報告

本年度は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令に伴い、発令期間中の金剛峯寺関連の各拝観所は拝観停止となり、高野山霊宝館も四月二十一日（火）～五月十五日（金）まで臨時休館いたしました。また、年四回発行の「霊宝館だより」ですが、例年のペースでの発行が難しくなり、夏の発行を見送りました。

そのため夏期企画展「如来——NYORAI——」を紙面でご紹介できず、本号で展覧会の記録も含め、開催の様子をご紹介します。

「如来」とは、「悟った者」という意味で、仏の最高位にあたることから、古来より様々な人々の信仰を集めてきました。曼荼羅の中心に位置する大日如来、極楽浄土に導く阿弥陀如来、無病息災をかなえる薬師如来などがよく知られ、高野山では、主にお寺の本尊として祀られています。霊宝館では、こうした様々な如来像、また如来に関わる文化財が数多く伝わっています。本展はこれらをご紹介します展覧会として七月十一日（土）～九月二十七日（日）に開催いたしました。



左：国宝 仏涅槃図 平安時代 金剛峯寺

春期企画展「ほとけさまと動物たち」にて4月25日（土）～5月10日（日）に展示を予定しておりましたが、臨時休館のため公開を延期し、夏期企画展にて展示いたしました（8月25日～9月27日）。



写真1 金堂（大正時代末期から昭和時代初期撮影）



写真2 金堂が焼失する様子（昭和元年（1925）撮影、下名迫家所蔵写真より）



写真4 御影堂の高欄（昭和元年（1925）の火災の痕跡を留めています（写真左側は金堂側））



写真3 御影堂



写真6 御影堂のドレンチャー作動風景

ですが、火の勢いは止まらず、僧侶らの心身の限界も近づいた時、奇策が閃きました。それは建物の屋根や壁、戸、そして縁などに味噌を塗るという突拍子もないものでした。ちょうど伽藍の南側に近接する商家の中には、味噌を醸造し販売する商家がありました。考えている余地はありませんし、一刻の猶予も許されませんでしたので、すぐに商家から味噌は運ばれ、建物に塗られました（写真5）。やがて、金堂の火の手が収まり、味噌を建物に塗る奇策は、見事に功を奏して、火災の熱を遮り無事御影堂は守られました。弘法大師空海の聖なる建物に味噌を塗る発想には驚きですが、屋根に上って自

らの身体で建物を守ろうと、弘法大師に対する篤い信仰心から起こした行動にも驚きを隠しません。また、その話には続きがあり、金堂の火災後、御影堂に塗られた味噌は火災の熱でこんがりと焼け、大変香ばしい良い香りが壇上を何日間も漂ったそうです。金堂は焼失してしまいました。味噌の香りは御影堂が無事だったことで、人々の心を少しは癒やし、安堵させてくれたかもしれせん。

現在の御影堂は、このような経験を生かし、火災から建物を守るため、地下にドレンチャーという消防設備が設けられ、放水して水のカーテン

で建物を守ることができます（写真6）。ですが、火災から本当に建物を守ることができるのはこのような消防設備ではなく、火事を起こさないという皆の日々の心がけであることはいままでもありません。（鳥羽正剛）



写真5 味噌蔵内部。現在も味噌を製造されています（写真提供 水木商店）



図2 『高野山古絵図』（江戸時代後期 持明院蔵）伽藍金堂部分



図1 『高野山古絵図』（江戸時代後期 持明院蔵）部分

伽藍金堂の焼失

火災②

高野山千二百年の歴史は、火災との闘いであると言っても過言ではありません。歴史を紐解くと、実に約八十回もの火災記録があります。

伽藍の建物も子院と同様に何度も火災に見舞われ、その度に再建を繰り返して、今日に到ります。近年で大きな規模の火災といえば、昭和元年（一九二五）に発生した金堂の火災があります。

この頃の建物の雰囲気は、『高野山古絵図』（江戸時代後期、持明院蔵、図1・図2）などの古絵図からも窺えます。建物の床面積は現在の金堂より一回り小さく、けれども屋根は二層の銅瓦葺きで、現在の金堂よりひととき存在感のある重厚な建物でした（写真1）。根本大塔と並んで、

またそのような金堂の火災に際し、近接する御影堂も焼失の危機に瀕しました（写真3）。御影堂は奥之院御廟と並び、弘法大師信仰の中心となる聖なる建物です。金堂と御影堂は図2のように近接しています。金堂は木造の建物ですので、火の勢いとその炎の熱は、御影堂に迫りました。その時の様子を伝えるものが現在残っています。それは、御

高野山信仰の中心で、高野山のシンボリックな建物でした。また残念なことに、内部には高野山開創期（九世紀）の本尊薬師如来坐像や脇侍の仏像が安置されていましたが、すべて焼失しました。

影堂の南西隅の縁にある高欄です（写真4）。近くで見ると、金堂側の部分が溶けたような形となっています。これは当時、この部分が火災の熱で燻（くも）って炭化し、経年の風化で炭化した部分が失われたものです。当時の火災の恐ろしさが伝わってきます。

御影堂を守った僧侶と味噌

ではどうして御影堂は現在、焼失を逃れ、現存しているのでしょうか。御影堂は木造、檜皮葺（ひわだぶき）の建物ですが、今にも熱で発火寸前の状況でした。その時、高野山の僧侶が取った行動は、まず大切な堂内の物を安全な場所に避難させ、そして何人も僧侶が着の身着のまま御影堂の屋根に上り、自らの法衣の袖などを広げて建物が熱が伝わらないようにしていたとの逸話が残っています。現在のような近代的な消火栓などの消防施設がない時代でしたから、僧侶たちは自分たちの身体で守ろうと取ったとっさの行動でした。

高野山霊宝館からのお知らせ



重文 奥院経蔵 桃山時代

◎**国宝 不動堂、重文 奥院経蔵**
修理中です
現在、不動堂の防災設備（ドレンチャ―）の修理と、奥院経蔵の外部・内部の補修を行っています。不動堂は本年度中に完了予定です。
経蔵は慶長4年（1599）に石田三成によって建立されました。御

◎**未指定収蔵品の修理報告**
今年2月に「閻魔天像」の修理と、「愛染曼荼羅図」「両界曼荼羅図」の木箱と太巻添軸の新調を行いました（いずれも西南院蔵、江戸時代）。太巻添軸とは収納時に軸に取り付ける木製のカバーで、芯を太くすることにより本紙の折れや皺の負担を軽減します。

◎**大元帥明王像 新収蔵**
6月に絹本着色「大元帥明王像」（松久佳遊筆、截金は松久真や）を収蔵いたしました。来る11月23日（祝）から30日（月）に至る期間、金堂で執り行われる、「大元大法」において奉祀するために新調したものです。この修法は、今上天皇の即位を奉祝し、玉體安穩を祈願するため奉修されます。



◎令和2年度の

ミュージアム法話 中止

134号で告知いたしましたミュージアム法話は、新型コロナウイルス感染拡大を懸念し、すべて中止となりました。来年度の開催をご期待ください。

◎友の会会員募集

- ・会員証提示で会員本人様のみ霊宝館と金堂・大塔の拝観無料（10/16より）
- ・年4回発行の機関誌「霊宝館だより」送付
- ＜年会費＞
- 一般会員（個人） 3,000円
- 賛助会員（法人） 30,000円
- 皆様のご入会をお待ちしております。
- ※来年度は金額等、変更の場合があります。

〈冬号休刊のお知らせ〉

今回の「霊宝館だより」は、令和3年春に発行予定です。毎号の発刊を楽しみにして下さっている皆様にはご迷惑おかけしますが、ご了承ください。

高野山霊宝館は令和3年（2021）5月、開館100周年を迎えます。

お問い合わせ先 高野山霊宝館 TEL 0736-56-2029(代)

高野山の文書 (二十一)

「後醍醐天皇綸旨」について

後醍醐天皇（一二八八～一三三九、以下「後醍醐」）は、鎌倉幕府を倒し、建武の新政を行うも、足利尊氏と対立し、吉野（奈良県吉野町）で南朝を建てた天皇です。伽藍愛染堂の建立など、高野山とも深い関係がありました。今回は『宝簡集』（国宝、金剛峯寺蔵）巻四十所収の、鎌倉時代末期に後醍醐が高野山に下した綸旨を紹介します。



「後醍醐天皇綸旨」（国宝『宝簡集』巻四十所収）

綸旨とは、天皇の意を家臣が承けて出す略式の文書で、奉書という文書の一種です（詳細は霊宝館だより一三〇号参照）。宿紙（薄墨紙などとも）という灰色の紙の使用が通例でした。当時は紙が貴重で、使用済みの紙を漉き直して再利用していました。その際、元の墨がにじみ、紙が灰色になるのです。

文書の内容は、「関東の逆徒（鎌倉幕府打倒を企てる後醍醐は、元徳三年（一三三二）八月九日に元弘に改元するも、幕府は改元を拒否、対立が深まります。二十四日、後醍醐は京を逃れて笠置山（京都府笠置町）に籠もるも、幕府の大軍に攻められます。九月二十日、幕府は勝手に光厳天皇（一三三三～一三四四）を即位させ、同時期に二人の天皇が誕生します。二十八日、笠置山が陥落、後醍醐は捕まり、隠岐（島根県隠岐島）へ流されました。この綸旨は元弘元年九月二十三日付なので、笠置山で窮地の後醍醐が、高野山に祈禱を命じた綸旨とわかります。当時、弘法大師空海自筆と伝わる『御手印縁起』に記された旧領（紀ノ川以南、貴志川以東）は自領だと主張してい

（積文）
関東逆徒等以武威乱
朝家万民之愁歎禁無
聊何以仏法之力不令帰
王化哉早当寺殊凝無
二懇精可抽御祈禱之
忠懃然者於旧領者如元
可被返付者
天氣如此悉之
元弘元年九月廿三日 少納言（花押）
金剛峯寺衆徒御中

鎌倉幕府打倒を企てる後醍醐は、元徳三年（一三三二）八月九日に元弘に改元するも、幕府は改元を拒否、対立が深まります。二十四日、後醍醐は京を逃れて笠置山（京都府笠置町）に籠もるも、幕府の大軍に攻められます。九月二十日、幕府は勝手に光厳天皇（一三三三～一三四四）を即位させ、同時期に二人の天皇が誕生します。二十八日、笠置山が陥落、後醍醐は捕まり、隠岐（島根県隠岐島）へ流されました。この綸旨は元弘元年九月二十三日付なので、笠置山で窮地の後醍醐が、高野山に祈禱を命じた綸旨とわかります。当時、弘法大師空海自筆と伝わる『御手印縁起』に記された旧領（紀ノ川以南、貴志川以東）は自領だと主張してい

た高野山にとって、旧領の保証に関わる重要な綸旨でしたが、後醍醐の敗北で効力を失いました。
ちなみに、本文に後醍醐の名前もないのに、なぜ「後醍醐天皇綸旨」といえるかというと、「天氣如此悉之（天氣此の如し。之を悉くせ）」が、綸旨の書留文言（決まり文句）の一種で、「天氣」が「天皇の意志」を示します。このとき天皇は、後醍醐、光厳の二人ですが、幕府側の光厳が「元弘」を使用しないこと、幕府を「関東逆徒」としていることから「後醍醐天皇綸旨」といえます。
元弘三年（一三三三）、隠岐を脱出した後醍醐は幕府を滅ぼし、同年十月、前述の高野山の主張を認める裁定（元弘の勅裁）を下します。この裁定を根拠に高野山は山麓に領地を得て、江戸時代まで続く大領主となりました。また、『御手印縁起』は書写され、後醍醐の手印が捺されました。この写本「金剛峯寺根本縁起」（重要文化財）は現存し、霊宝館に収蔵されています（大宝蔵展で展示）。
※今回紹介した文書は
大宝蔵展で展示します。
（研谷 昌志）



休館中の5月11日撮影
静かな高野山で、
ジャクナゲは今年もきれいに咲き誇っていました。